

「土砂災害に関するアンケート」実施結果

e-モニターの皆さんにご参加いただき「土砂災害に関するアンケート」を実施しました。

アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆さんにお礼を申し上げますとともに、アンケートの実施結果を下記のとおり報告します。

アンケート概要

○アンケート実施期間

平成 24 年 7 月 19 日(木)から平成 24 年 8 月 13 日(月)まで

○意見募集の結果

対象者数 1,335 名

回答者数 923 名

回答率 69.1%

○回答者属性

性別 男性 507 名 女性 416 名

年代別

20代	30代	40代	50代	60代	70代
88名	194名	248名	214名	139名	40名
9.5%	21.0%	26.9%	23.2%	15.1%	4.3%

地域別

桑名・員弁地域	四日市地域	鈴鹿・亀山地域	津地域	松阪地域
129名	204名	122名	157名	111名
14.0%	22.1%	13.2%	17.0%	12.0%

南勢志摩地域	伊賀地域	尾鷲地域	熊野地域
94名	78名	16名	12名
10.2%	8.5%	1.7%	1.3%

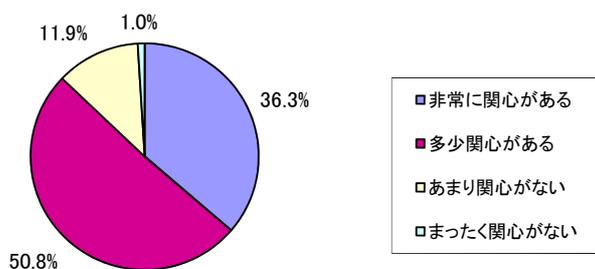
アンケート結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかとの見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

アンケート結果

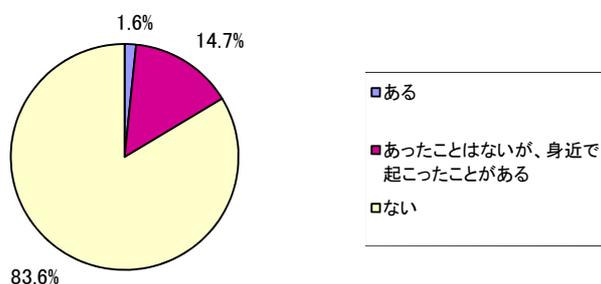
Q1 「土石流」、「崖崩れ」、「地すべり」などの土砂災害に関心がありますか。

「多少関心がある」50.8%が最も多く、続いて「非常に関心がある」36.3%となっています。
「多少関心がある」「非常に関心がある」を合わせると、約 87%の方が関心があると回答しています。



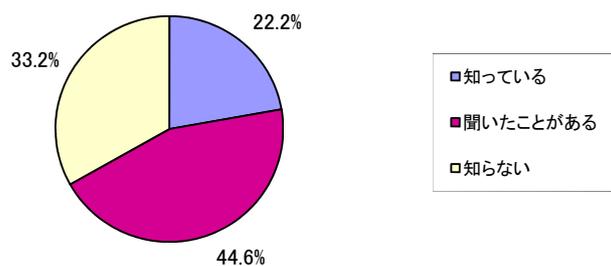
Q2 過去に土砂災害にあったことがありますか。

83.6%の方が「あったことはない」と回答しています。



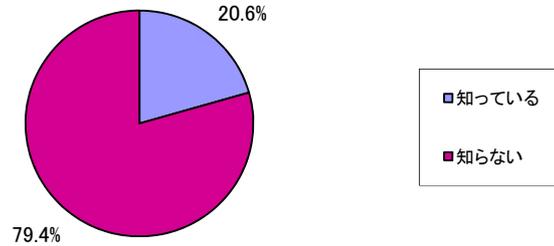
Q3 土砂災害の恐れのある箇所を、「土砂災害危険渓流」「急傾斜地崩壊危険箇所」「地すべり危険箇所」といいますが、この言葉を知っていますか。

「聞いたことがある」44.6%が最も多くなっています。



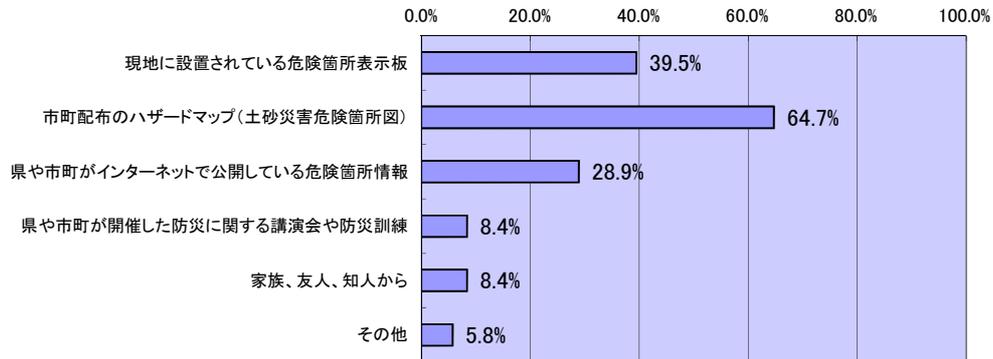
Q4 県では「土石流危険渓流」「急傾斜地崩壊危険箇所」「地すべり危険箇所」を調査公表していますが、この情報が公表されていることを知っていますか。

79.4%の方が「知らない」と回答しています。



Q5 Q4で「知っている」と答えた方にお聴きします。
土砂災害危険箇所の情報をどうやって知りましたか。(複数回答可)

「市町配布のハザードマップ(土砂災害危険箇所図)」64.7%が最も多く、次いで「現地に設置されている危険箇所表示板」39.5%となっています。



「その他」の意見

- ・報道番組
- ・メディアから
- ・市町の担当窓口
- ・他県の情報を見たので調べた

Q6 土砂災害が発生する可能性が高まった時に発表される防災情報のうち、あなたが知っているものを選んでください。(複数回答可)

「大雨注意報や大雨警報」93.1%が最も多く、次いで「避難勧告や避難指示」85.0%となっています。三重県では、平成19年9月より津地方气象台と共同で「土砂災害警戒情報」を発表していますが、その認知度は56.2%に留まっています。

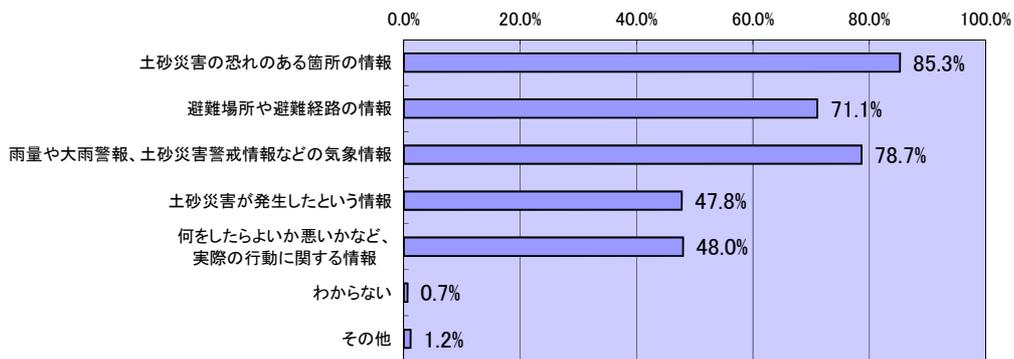


『土砂災害警戒情報』

大雨による土砂災害発生危険度が高まった時、市町長が避難勧告等を発令する際の判断や、住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する情報です。三重県では平成19年9月以降、平成24年9月末までの約5年間に延べ市町(地区)に発表しています。

Q7 土砂災害から身を守るためにどんな情報が必要だと思いますか。(複数回答可)

「土砂災害の恐れのある箇所の情報」85.3%が最も多く、次いで「雨量や大雨警報、土砂災害警戒情報などの気象情報」78.7%となっています。

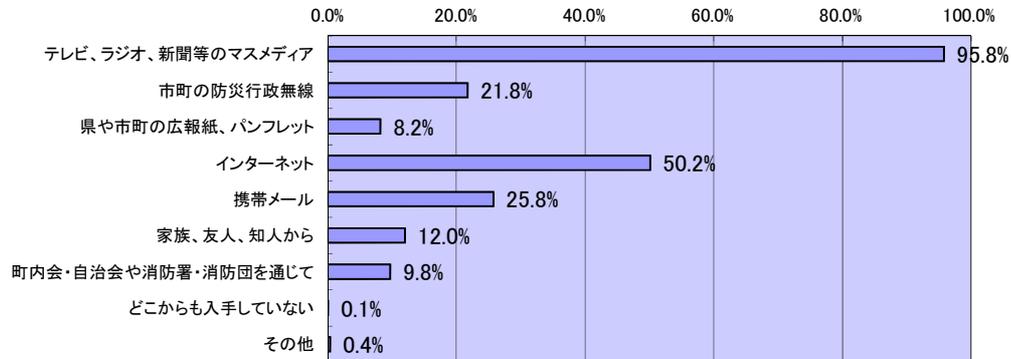


「その他」の主な意見

- ・よりピンポイントな土砂災害警報と避難場所・避難経路
- ・土砂災害以外の情報(集中豪雨の時の浸水危険箇所・ため池の堤防強度や崩壊予知情報など)も併せてわかれば
- ・避難所までの安全な順路
- ・地域の危険マップ配布

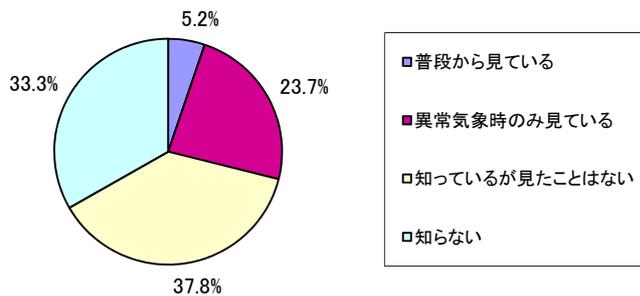
Q8 気象や土砂災害についての情報をどこから入手していますか。(複数回答可)

「テレビ、ラジオ、新聞等のマスメディア」95.8%が最も多く、次いで「インターネット」50.2%となっています。



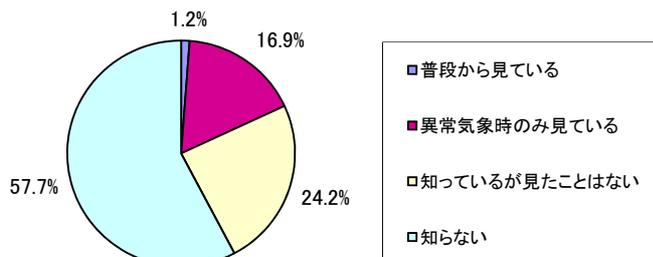
Q9 県の防災ホームページ「防災みえ.jp」について、あてはまるものを選んでください。

「知っているが見たことはない」37.8%が最も多く、次いで「知らない」33.3%となっています。
「知っているが見たことはない」と回答された方も含めて、その認知度は 66.7%となっています。



Q10 県の雨量情報や土砂災害危険度情報のホームページ「三重県土砂災害情報提供システム」について、あてはまるものを選んでください。

「知らない」57.7%が最も多く、次いで「知っているが見たことはない」24.2%となっています。
「知っているが見たことはない」と回答された方も含めて、その認知度は 42.3%となっています。



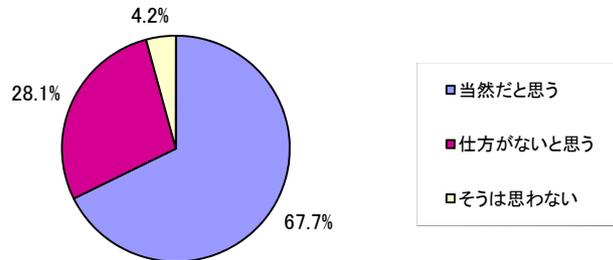
『三重県土砂災害情報提供システム』

県内の土砂災害危険箇所や土砂災害危険度情報、雨量情報がホームページで確認できます。

<https://www.sabo.pref.mie.jp/Top.aspx>

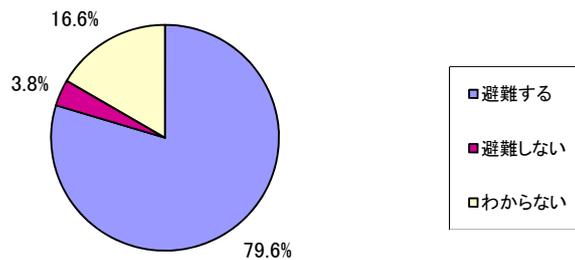
Q11 土砂災害の防止にあたって、まず「自分の身は自分で守る」という考え方がありますが、この考え方についてどう思いますか。

「当然だと思う」67.7%が最も多くなっています。



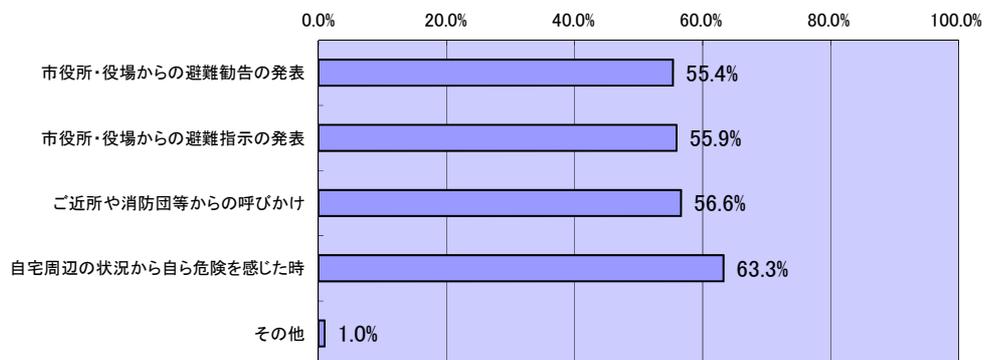
Q12 自宅周辺で土砂災害の危険性がある場合、避難をしますか。

79.6%の方が「避難する」と回答しています。



Q13 Q12で「避難する」と答えた方にお聴きします。
避難するきっかけは何だと思いますか。(複数回答可)

「自宅周辺の状況から自ら危険を感じた時」63.3%が、市役所・役場、ご近所・消防団等からの呼びかけより多くなっています。

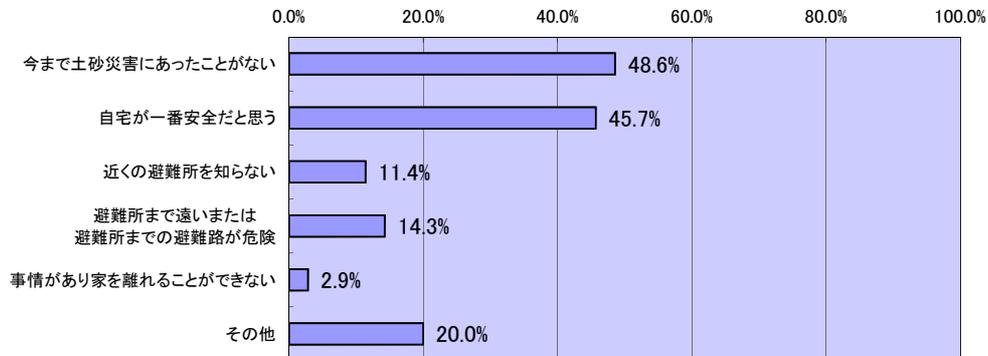


「その他」の主な意見

- ・携帯メール エリアメール

Q14 Q12で「避難しない」と答えた方にお聴きします。
 避難しない理由は何ですか。(複数回答可)

「今まで土砂災害にあったことがない」48.6%が最も多くなっています。

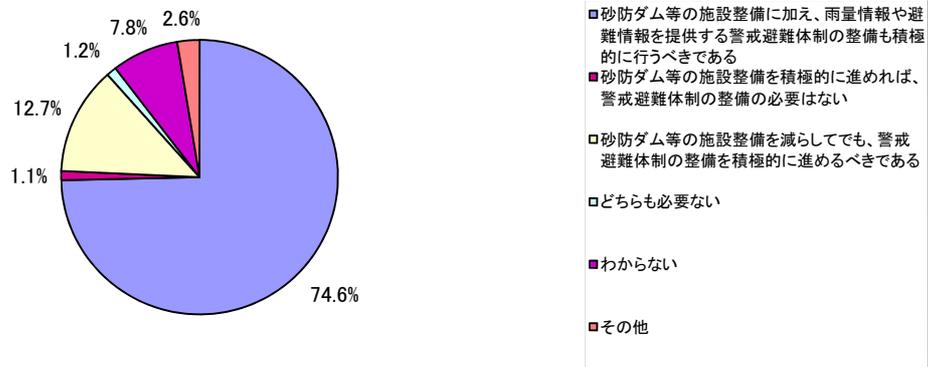


「その他」の主な意見

- ・自宅が土砂災害の起こる場所でない
- ・地域的に土砂災害の危険のある地域ではないので

Q15 今後も土砂災害対策事業(砂防事業)は必要だと思いますか。

74.6%の方が、「砂防ダム等の施設整備に加え、雨量情報や避難情報を提供する警戒避難体制の整備も積極的に行うべきである」と回答しています。



「その他」の主な意見

- ・砂防効果について 公表し 効果のある事業にしてほしい
- ・施設整備と並行して山の手入れをし、保水力を高めるべき
- ・砂防事業に加えて、農業ため池の堤防強度を再調査し強化工事も必要
- ・一級河川に隣接しており、水害対策もお願いしたい
- ・どこの箇所がどのくらい危険なのかきめ細かく精査して 情報を開示していただきたい
- ・必要なら必要だが、無駄な事業をしてほしくない
- ・砂防ダムも必要だが、自然を壊さず安全な生活圏を守る手段も検討してほしい
- ・対策だけでは根本的な解決にならない 避難経路・場所の安全確保の100%を目指すことと災害が起きた後の迅速かつ正確な対応が住民含め全体でできるように取り組んでいくのがいいと思う
- ・ホームページの活用など学校教育で保護者を巻き込んでいくべき
- ・警戒が必要な地域への啓蒙活動